

朗報！ コロニー建設

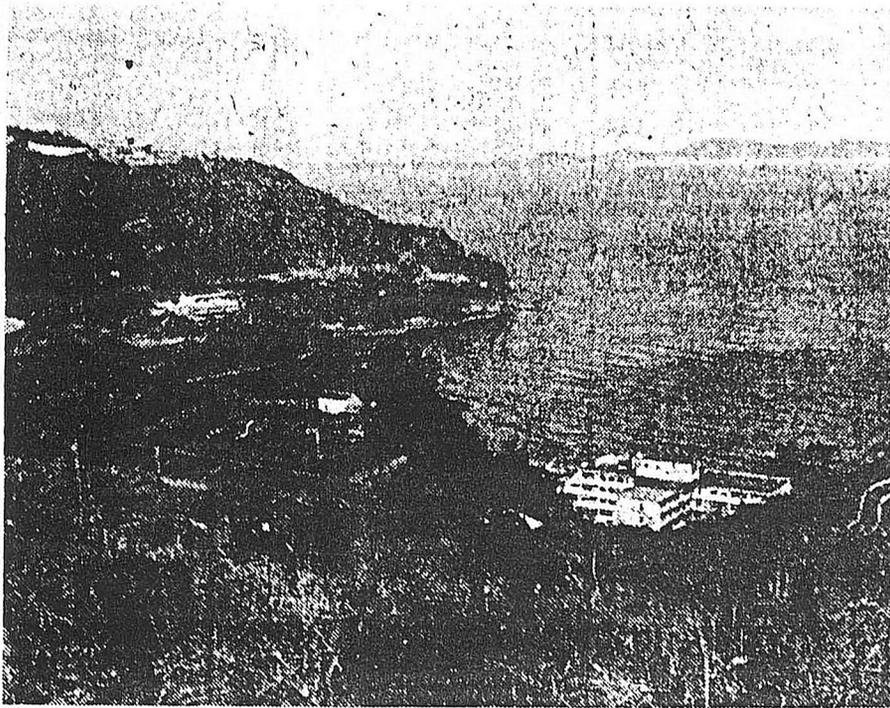
水俣病患者

重症児の収容施設

来年度早々に着工 身障者の授産場も

水俣病患者を中心とする重症心身障害児の収容施設と身障者の授産施設の建設が内定、来年度早々にも水俣市湯の児の高台に着工の運びとなった。これら水俣病患者たちの願いがつかの間に実現することになる。

計画では、同施設は総費一億一千万円、敷地面積四十床、授産施設五十床の一ハビリテーション南側の高台、現二千万円以上、敷地は湯の児一帯、特別養護老人ホームが建設さ



施設建設が予定されている湯の児の高台 (右下は湯の児ハビリ)

れている付近、土地はチツソ株式会社が提供する。水俣市としては組織を福祉法人とし、ハビリと老人ホームを含めて実質上のコロニーにしたい考えである。

この計画について、浮城水俣市長は当初、県にも国立コロニーの建設を働きかけていたが、国のコロニー建設の態勢が整って

分については、設備ワークを極めてもらおう。今後国に働きかけることとして、一億二千万円については四半分残りを県市が負担する。すでに水俣病が発生してから十数年を経過、胎児性患者たちも十四歳から十五歳になるなど、将来設計が必要になってきただけに、今度のコロニー計画は朗報として患者たちに歓迎されている。